

令和4年度 第5回 愛宕小学校 学校運営協議会 実施報告

1 日 時 令和5年1月23日（月）13：30～15：45

2 場 所 愛宕小学校 本館2階 会議室

3 学校運営協議会

（1）あいさつ

【委員長】

新型コロナウイルス感染症への対応が近いうちに変わる。一方で、油断せず注意していくことが必要である。今回は、学校自己評価に対する関係者評価を忌憚なくお願いしたい。

【校長】

1年生が「昔の遊び大会」を久しぶりに開催した。地域から17名のボランティアさんに参加いただいた。それぞれの遊びの仕方を丁寧に教えていただき、児童も大変喜んでいて。今後も、地域と子どもをつなぐ活動を進めていきたい。

本日は、皆様に学校関係者評価をしていただき。学校・教員に対して、多面的・多角的な意見をいただき、改善活動を推進していきたい。

（2）報告－3学期の行事予定－

3学期の主な行事として、1月は昔の遊び体験1年、授業参観、みえスタディ・チェック5年、2月は児童集会、R5年度入学児童説明会、昔のくらし体験3年、6年生を送る会、3月は防災学習・避難訓練、卒業式、修了式がある。感染症拡大防止対策を徹底して実施していきたい。

6年生を送る会は、学校運営協議会委員さんに参観していただき、子どもたちの1年間の成長を評価していただきたいと考えている。卒業式は、感染症への対応が変わってきたことから、本年度は5年生児童を在校生代表として参加させる。来賓は、中学校区でそろえて、学校運営協議会委員長、PTA会長に加え、地元の市議会議員さんを招く。

（3）協議事項－学校関係者評価－

① 学力向上に向けた取組

- ・ **ChromeBook** を持ち帰らせることで、子どもたちの通学カバンが重くなっている。子どもたちの負担を軽減する策を明らかにして示す必要がある。通学カバンについては、ランドセルは大きく重いので、別のものでもよいことを、保護者に周知していく必要がある。
- ➡ 家庭学習で必要ない教科書やノート等は、学校に置いていかせることを全校でも確認している。
- ・ 持ち帰った **ChromeBook** で、どのような学習を家庭でさせていくのか。

- 4, 5, 6 年生は、今週から毎日持ち帰っている。最初の取組として、翌日の予定や宿題を学校でスプレッドシートにローマ字入力して、家で連絡帳として使用させている。また、インターネットを用いた調べ学習、タイピング練習だけでなく、オクリンクを使って課題を提出させたり、調べ学習の内容をスライドやジャムボードを使ってまとめさせたりする等、多様な活用に今後広げていきたいと考えている。
- ・ 家庭学習が多いという意見があるが、どう考えるか。
 - 一部の保護者から、宿題が多いという意見をいただいている。本校では、宿題にかかる時間として、「学年数×10分～15分」という目安を設けている。各学年、音読、漢字・計算練習を基本として宿題を出している。宿題にかかる時間には個人差があり、家庭で保護者と子どもが一緒に過ごせる時間にも差があることから、負担に感じる場合は学校に相談してほしい。
- ・ スクリーンタイムの削減と保護者への啓発を、PTA や地域とも連携してさらに進めてほしい。
- ・ 端末の活用を推進することは必要だが、一方で大切な読書活動もしっかりと時間を確保させていく必要があるのではないかと。家庭での親子読書や音読を聞いてもらう活動は、大切にしていってほしい。
- ・ 子どもたちの学習塾の利用率はどの程度のものか。すべての学習の土台である国語・算数の学力向上は、しっかりと進めてほしい。
- ・ 生活科・社会科における地域教材の開拓、授業での活用は、子どもたちが郷土である愛宕地区に誇りをもてる取組となる。さらに推進をしていってほしい。

② 子どもが安心して学べる環境づくり

- ・ ヘルメットの着用は、概ねできていると感じられる。
 - 法改正により、自転車乗車の際には、大人もヘルメットの着用が努力義務になった。教員や地域の大人が手本となってヘルメット着用率をさらに高めていきたい。
- ・ 挨拶については、児童・保護者・地域に意識の違いが見られる。挨拶は、人や社会とつながるための大切なものである。子どもたちに、挨拶とは何か、どんな価値があるのかを丁寧に指導していく必要がある。
- ・ コロナ禍によって、子どもたちの生活において、会話の機会が減少したのではないかと。子どもの成長のために、人との対話の機会を充実させていく必要がある。
- ・ 以前と比べ、子どもたちが清掃活動を一生懸命に行っていることに感心した。意識の向上が感じられる。
- ・ 教育活動の結果で評価するのではなく、自分たちが目標達成のためにどのような活動をしたかを評価することで、教員のモチベーションを上げられないか。
 - 成果を検証することで、教育活動の改善を常に行っていく必要があると、成果指標は、やはり必要だと考える。

③ 家庭・地域との連携

- ・ いざという時に、命を守る行動を子どもたちがとれるように、津波避難訓練（江島総合スポーツ公園への避難）を今後も継続する必要がある。
- ・ 地域づくり協議会、自治会のお力添えにより、長年懸案となっていた地藏堂交差点付近の通学路にガードレールを設置することができた。運動場からボール等が塩浜街道に出ていかないようフェンスを高くする要望も、地域の皆様と継続していきたい。
- ・ 不審者に対する子どもたちの対応訓練を継続し、地域と連携した取組に発展させていきたい。
- ・ 地域行事への児童の参加をさらに増やしたい。それにより、学校・家庭・地域の連携をさらに強めていきたい。
- ・ 子どもを健やかに育てていくために、学校・地域で保護者が親業を学ぶ場を保障していく必要がある。PTAにおいても、そのような活動を進めてほしい。

④ 学び、働きやすい職場環境

- ・ 他の教員の授業を参観する教員が少ないのは、残念である。授業の職人として主体的に学ぶ姿勢を高めてほしい。教員の経験年数に応じたスキルアップができる研修も必要だ。
- ・ 今年の教員の有給休暇取得率は、一定の評価をしてもよいのではないかな。

4 コミュニティ・スクール推進コーディネーターより

今回の学校関係者評価を受けて、学校長が来年度の学校経営方針を作成することが大切である。

教員の授業改善については、校区内の地域教材の掘り起こしはとても素晴らしい取組である。地域の方を積極的に学校へ招き、いっしょに話し合いながら授業プランをつくってほしい。今後も、子どもたちが愛宕地区に誇りと愛着を感じられるよう、学校運営協議会委員さんと学校の教員が一体となって、取組を進めてほしい。

規律や規範意識については、愛宕小は例年力を入れている。その中でも、挨拶に力を入れていることが良い。子どもたちがさらに挨拶を行えるよう取り組んでほしい。

コミュニティ・スクールについては、他市町はまだまだ取り組まれておらず、鈴鹿は大変進んでいる。それは、学校が地域に「門」を開いているからだ。これからも、地域の人材が、積極的に学校に係わり、子どもたちの成長を支援してほしい。